



平成17年3月期 第3四半期財務・業績の概況（連結）

平成17年2月9日

上場会社名 株式会社メガチップス (コード番号：6875東証第1部)
 (URL <http://www.megachips.co.jp/>)
 問合せ先 代表者役職 代表取締役社長 氏名 松岡 茂樹
 責任者役職 取締役・執行役員 氏名 藤井 理之
 (TEL：(06)-6399-2884)

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用：有
の有無

連結財務諸表等の作成に際しては、中間連結財務諸表作成基準に準拠しておりますが、以下の事項については簡便な方法を採用しております。

- ・税金費用の計上基準 法定実効税率をベースとした年間予測税率により計算しております
- 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無：無

連結及び持分法の適用範囲の異動の有無：有(16年3月期比)
 連結(新規)2社
 株式会社メガチップスLSIソリューションズ
 株式会社カメオインタラクティブ
 連結(除外)1社
 株式会社カメオインタラクティブ

会計士又は監査法人による関与の有無：有

2. 平成17年3月期第3四半期業績の概況(平成16年4月1日～平成16年12月31日)

(1) 経営成績(連結)の進捗状況

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
17年3月期第3四半期	24,572	21.2	2,232	39.4	2,227	-	1,367	-
16年3月期第3四半期	20,278	-	1,601	-	-	-	-	-
(参考)16年3月期	25,878		1,508		1,460		280	

	1株当たり四半期(当期)純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益
	円 銭	円 銭
17年3月期第3四半期	54.14	-
16年3月期第3四半期	-	-
(参考)16年3月期	10.09	-

(注)売上高及び営業利益以外の四半期経営成績の開示は当四半期から行っているため、前年同四半期については記載しておりません。売上高及び営業利益におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。

・業績の全般的概況

当第3四半期におけるわが国経済は、企業収益の改善傾向が続き、また、デジタル家電や携帯電話の市場の拡大が見られ、これらの新製品開発努力が消費者意欲を喚起し、景気は緩やかに回復基調で推移いたしました。

このような状況下におきまして、当社グループでは、事業基盤である顧客専用LSI(ASIC)に加えて、画像の圧縮伸張や音声・音楽の圧縮伸張、通信等の当社グループの独自技術を競争力とした特定用途向けLSI(ASSP)及び当社グループシステムLSIを搭載した独創的なシステム製品の開発及び販売に注力してまいりました。

特に、映像、音声、音楽等のメディアのデジタル化と、ブロードバンドネットワークや第3世代携帯電話網の普及により、情報通信分野における当社グループの活躍の場が拡大しており、この成長分野に向けて高機能のデジタ

ルカメラ向けシステム L S I や第 3 世代携帯電話向けシステム L S I の開発と販売、またセキュリティ・モニタリング用途に利用されるデジタル映像伝送・記録を中心としたシステム製品の開発と販売を積極的に進めてまいりました。

その結果、連結ベースでの売上高は245億7千2百万円（前年同期比21.2%増）、営業利益は22億3千2百万円（同39.4%増）、経常利益は22億2千7百万円、第3四半期純利益は13億6千7百万円となりました。

・セグメント別の概況

L S I 事業

顧客専用 L S I（A S I C）につきましては、従来機種向けのゲームソフトウェア格納用 L S I（カスタムマスク ROM）に加え、新機種向けのゲームソフトウェア格納用 L S I の需要が堅調に推移したことにより、連結売上高は169億5千1百万円（前年同期比25.9%増）となりました。また、特定用途向け L S I（A S S P）につきましては、主として第3世代携帯電話向けの画像・音声・通信処理用 L S I やデジタルスチルカメラ用 L S I の需要が堅調に推移し、連結売上高は53億7千1百万円（同15.5%増）となりました。以上の結果、その他 L S I を含めた L S I 事業全体の連結売上高は223億2千5百万円（同23.2%増）、営業利益は27億3千6百万円となりました。

システム事業

産業用システムにつきましては、セキュリティ・モニタリング分野におけるデジタル画像記録・伝送システムの需要が堅調に推移したことにより、連結売上高は16億1千6百万円（前年同期比49.8%増）となりました。一方、民生用システムにつきましては、新機種ネットワークカメラを投入した結果、連結売上高は5千7百万円（同67.8%増）となりました。以上の結果、その他システムを含めたシステム事業全体の連結売上高は17億2千8百万円、営業損失は4億2千6百万円となりました。

オーディオ・オーサリング事業

オーディオ・オーサリングにつきましては、当社が株式会社カメオインタラクティブをイーフロントィアグループへ売却したことに伴い、平成16年10月1日以降、連結対象から外れることとなりました。第2四半期までの実績は、連結売上高が5億1千7百万円、営業損失が8千5百万円であります。

（注）平成16年4月、株式会社メガチップスシステムソリューションズのオーディオ・オーサリング事業を株式会社カメオインタラクティブに承継したことに伴い、事業の種類別セグメントの変更を行うこととし、当該事業を従来の「システム事業」セグメントから切り離し、「オーディオ・オーサリング事業」セグメントを新設することにいたしました。そのため、システム事業全体及びオーディオ・オーサリング事業の連結売上高については、前年同期との比較を行っておりません。

（2）財政状態（連結）の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
17年3月期第3四半期	20,297	16,454	81.1	651.49
16年3月期第3四半期	-	-	-	-
(参考)16年3月期	18,183	15,371	84.5	607.49

【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
17年3月期第3四半期	7,185	524	251	3,772
16年3月期第3四半期	-	-	-	-
(参考)16年3月期	6,174	140	707	11,734

（注）当四半期より四半期財政状態の開示を行っているため、前年同四半期については記載しておりません。

・財政状態（連結）の変動状況

当四半期における総資産は、202億9千7百万円（前連結会計年度末比21億1千4百万円の増加）となりました。これは、前連結会計年度末近くに実施した売掛金の流動化を当四半期は実施しなかったことで前連結会計年度末と比較して現金及び預金が減少しており、また、売上高の増加に伴い受取手形及び売掛金が増加していることが主な要因であります。具体的には、現金及び預金が前連結会計年度末と比較して79億6千2百万円減少する一方で、受取手形及び売掛金が前連結会計年度末と比較して94億7千1百万円増加しております。

負債合計は38億4千3百万円（同10億3千2百万円の増加）となりました。これは、利益増加に伴い未払法人税

等が前連結会計年度末と比較して11億3千2百万円増加したことが主な要因であります。

株主資本合計は164億5千4百万円（同10億8千2百万円の増加）となりました。この結果、当四半期末の株主資本比率は81.1%となりました。

・キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、71億8千5百万円の使用となりました。これは、税金等調整前四半期純利益が22億3千7百万円となったものの、売上債権が95億7千7百万円増加したこと等によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、5億2千4百万円の使用となりました。この結果、営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローを合算したフリー・キャッシュ・フローは77億9百万円の使用となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、2億5千1百万円の使用となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物は全体として前連結会計年度末より79億6千2百万円減少し、第3四半期期末残高は37億7千2百万円となりました。

3. 平成17年3月期の連結業績予想（平成16年4月1日～平成17年3月31日）

平成16年11月12日に公表いたしました平成17年3月期の連結業績予想を下記の通り修正いたします。なお、平成17年3月期の個別業績予想に関しましては、修正しておりません。

【平成17年3月期連結業績予想】

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	28,820	1,610	950
今回発表予想（B）	30,000	1,950	1,120
増減額（B - A）	1,180	340	170
増減率（%）	4.1	21.1	17.9
前期実績（平成16年3月期）	25,878	1,460	280

・業績修正の理由

当期の当社グループ連結業績は、LSI事業につきましては、顧客専用LSIの主要製品であるゲームソフトウェア格納用LSI（カスタムマスクROM）において、従来機種向け製品の需要が堅調であることに加え、新機種向けの製品の需要も加わり、当初の連結売上高を上回る見通しであります。

システム事業につきましては、ほぼ計画通りに業績が推移しており、当初見込どおりの連結売上高となる見通しであります。

以上の状況から、売上高につきましては300億円（前回発表予想比4.1%増）、経常利益は19億5千万円（同21.1%増）、当期純利益は11億2千万円（同17.9%増）となる見通しであります。

・業績予想に関する注意

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

以 上

添付資料

- ・ 四半期連結（要約）貸借対照表
- ・ 四半期連結（要約）損益計算書
- ・ 四半期連結（要約）剰余金計算書
- ・ 四半期連結（要約）キャッシュ・フロー計算書
- ・ 四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項
- ・ 注記事項
- ・ セグメント情報
- ・ 生産、受注及び販売の状況

四半期連結財務諸表

1. 四半期連結(要約)貸借対照表

(単位:千円)

科 目	期 別	当第3四半期末 (平成16年12月31日現在)		前連結会計年度 (平成16年3月31日現在)	
		金 額	構成比	金 額	構成比
(資産の部)			%		%
流動資産					
1.現金及び預金		3,772,050		11,734,446	
2.受取手形及び売掛金		13,110,678		3,639,078	
3.たな卸資産		993,977		1,203,521	
4.その他		815,916		297,269	
5.貸倒引当金		580		1,804	
流動資産合計		18,692,042	92.1	16,872,511	92.8
固定資産					
1.有形固定資産	1	201,070	1.0	380,784	2.1
2.無形固定資産		182,109	0.9	223,483	1.2
3.投資その他の資産	3	1,222,765	6.0	706,416	3.9
固定資産合計		1,605,945	7.9	1,310,683	7.2
資産合計		20,297,987	100.0	18,183,195	100.0
(負債の部)					
流動負債					
1.買掛金		2,171,895		2,013,337	
2.未払法人税等		1,138,692		6,054	
3.その他		481,243		697,421	
流動負債合計		3,791,830	18.7	2,716,813	15.0
固定負債		52,155	0.2	94,695	0.5
負債合計		3,843,985	18.9	2,811,509	15.5
(資本の部)					
資本金		4,840,313	23.8	4,840,313	26.6
資本剰余金		6,181,300	30.5	6,181,300	34.0
利益剰余金		6,735,855	33.2	5,650,018	31.1
その他有価証券評価差額金		506	0.0	2,834	0.0
自己株式		1,302,961	6.4	1,302,781	7.2
資本合計		16,454,001	81.1	15,371,686	84.5
負債及び資本合計		20,297,987	100.0	18,183,195	100.0

2. 四半期連結（要約）損益計算書

（単位：千円）

科 目	期 別		前連結会計年度	
	当第3四半期 （自 平成16年4月1日 至 平成16年12月31日）		（自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日）	
	金 額	百分比	金 額	百分比
売 上 高	24,572,131	100.0	25,878,984	100.0
売 上 原 価	19,515,613	79.4	20,218,951	78.1
売 上 総 利 益	5,056,517	20.6	5,660,032	21.9
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	2,824,187	11.5	4,151,454	16.1
営 業 利 益	2,232,330	9.1	1,508,578	5.8
営 業 外 収 益	17,868	0.1	10,995	0.0
営 業 外 費 用	23,045	0.1	58,927	0.2
経 常 利 益	2,227,153	9.1	1,460,646	5.6
特 別 利 益	34,114	0.1	89,686	0.4
特 別 損 失	23,625	0.1	715,519	2.8
税金等調整前第3四半期（当期）純利益	2,237,642	9.1	834,812	3.2
税 金 費 用	870,194	3.5	877,161	3.4
少 数 株 主 損 失	-	-	322,778	1.3
第3四半期（当期）純利益	1,367,447	5.6	280,430	1.1

3. 四半期連結（要約）剰余金計算書

（単位：千円）

科 目	期 別		前連結会計年度	
	当第3四半期 （自 平成16年4月1日 至 平成16年12月31日）		（自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日）	
	金 額		金 額	
（資本剰余金の部）				
資本剰余金期首残高		6,181,300		5,936,081
資本剰余金増加高				
1. 株式交換による新株の発行	-	-	245,219	245,219
資本剰余金第3四半期末（期末）残高		6,181,300		6,181,300
（利益剰余金の部）				
利益剰余金期首残高		5,650,018		5,549,740
利益剰余金増加高				
1. 第3四半期（当期）純利益	1,367,447		280,430	
2. 連結子会社減少による剰余金増加高	-	1,367,447	63,629	344,059
利益剰余金減少高				
1. 配 当 金	252,560		243,781	
2. 役 員 賞 与	29,000		-	
3. 自己株式処分差損	49	281,610	-	243,781
利益剰余金第3四半期末（期末）残高		6,735,855		5,650,018

4. 四半期連結(要約)キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科 目	期 別	当第3四半期 (自 平成16年4月1日 至 平成16年12月31日)	前連結会計年度 (自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日)
		金 額	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前第3四半期(当期)純利益		2,237,642	834,812
減 価 償 却 費		111,964	200,817
長期前払費用償却		49,887	76,704
貸倒引当金の増加額又は減少額()		7,271	20,371
賞与引当金の増加額又は減少額()		74,759	6,794
売上債権の増加額()又は減少額		9,577,419	4,363,964
たな卸資産の増加額()又は減少額		102,438	1,500,171
仕入債務の増加額又は減少額()		194,083	1,013,787
そ の 他		271,592	742,340
小 計		7,235,025	6,718,603
利息及び配当金の受取額		623	201
利息の支払額		-	2,194
法人税等の支払額()又は還付額		49,379	542,303
営業活動によるキャッシュ・フロー		7,185,023	6,174,306
投資活動によるキャッシュ・フロー			
定期預金の預入による支出		400,000	-
有形固定資産の取得による支出		30,253	22,967
無形固定資産の取得による支出		41,061	82,685
投資有価証券の取得による支出		15,000	20,047
投資有価証券の売却による収入		36,231	106,255
連結子会社売却による収入		207,691	-
関係会社の清算による収入		-	130,904
出資金の分配による収入		8,484	2,331
長期前払費用の取得による支出		79,530	74,677
保証金の支出		1,147	3,552
保証金の返戻による収入		1,567	104,160
貸付けによる支出		377,249	-
貸付金回収による収入		154,478	-
そ の 他		11,372	1,219
投資活動によるキャッシュ・フロー		524,417	140,941
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の純減少額		-	50,000
自己株式の純増加額		230	415,442
配当金の支払額		250,844	242,435
財務活動によるキャッシュ・フロー		251,074	707,878
現金及び現金同等物に係る換算差額		1,881	10,088
現金及び現金同等物の増加額又は減少額()		7,962,396	5,597,281
現金及び現金同等物の期首残高		11,734,446	6,337,127
連結子会社減少による現金及び現金同等物の減少額		-	199,962
現金及び現金同等物の第3四半期末(期末)残高		3,772,050	11,734,446

四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

期 別 項 目	当第3四半期 (自 平成16年4月1日 至 平成16年12月31日)	前連結会計年度 (自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日)
1. 連結の範囲に関する事項	<p>(1) 連結子会社は㈱メガチップスシステムソリューションズ及び㈱メガチップスL S Iソリューションズの2社であります。</p> <p>㈱メガチップスL S Iソリューションズ及び㈱カメオインタラクティブについては、当第1四半期において新たに設立したことにより当第1四半期より連結の範囲に含めることといたしました。</p> <p>なお、㈱カメオインタラクティブについては、当社が同社株式を売却したため、平成16年10月1日以降、連結の範囲から除いております。</p> <p>(2) 非連結子会社はありません。</p>	<p>(1) 連結子会社は㈱メガチップスシステムソリューションズの1社であります。</p> <p>前連結会計年度において連結子会社でありましたDigital Image, Inc.は清算したため、連結の範囲から除いております。</p> <p>(2) 非連結子会社は㈱スタインバーグ・ジャパンであります。</p> <p>連結の範囲から除いた理由 非連結子会社は、小規模であり、総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。</p>
2. 持分法の適用に関する事項	<p>持分法を適用していない関連会社はモバイルテレビジョン㈱であります。</p> <p>持分法を適用していない理由 持分法非適用会社は、四半期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても四半期連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。</p>	<p>持分法を適用していない非連結子会社は㈱スタインバーグ・ジャパンであり、関連会社はモバイルテレビジョン㈱であります。</p> <p>持分法を適用していない理由 持分法非適用会社は、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。</p>
3. 連結子会社の（第3四半期）決算日等に関する事項	<p>すべての連結子会社の第3四半期の末日は、第3四半期連結決算日と一致しております。</p>	<p>すべての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。</p>
4. 会計処理基準に関する事項	<p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法 有価証券 その他有価証券 時価のあるもの 第3四半期決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部資本直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定） 時価のないもの 移動平均法による原価法 たな卸資産 イ．連結子会社の仕掛品 個別法による原価法</p>	<p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法 有価証券 その他有価証券 時価のあるもの 連結決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部資本直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定） 時価のないもの 同 左 たな卸資産 ロ．当社の仕掛品 個別法による原価法</p>

項 目	期 別 当第 3 四半期 (自 平成16年 4 月 1 日 至 平成16年12月31日)	前連結会計年度 (自 平成15年 4 月 1 日 至 平成16年 3 月31日)
	<p>ハ．その他 主として総平均法による原価法</p> <p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法 有形固定資産 主として定率法 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。</p> <p>建 物 3 ～ 47年 その他 3 ～ 20年</p> <p>少額減価償却資産 3年均等償却 無形固定資産 定額法 但し、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（主に5年）に基づく定額法、ソフトウェア（市場販売目的分）については、販売可能有効期間（3年）に基づく定額法によっております。</p> <p>長期前払費用 イ．量産準備のために特別に支出した開発費用 販売可能有効期間（3年）に基づく定額法</p> <p>ロ．その他 均等償却 繰延資産の処理方法 イ．創立費 支出時に全額費用処理しております。</p> <p>(3) 重要な引当金の計上基準 貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>賞与引当金 従業員の賞与の支給に備えるため、当第 3 四半期に負担すべき支給見込額を計上しております。</p> <p>(4) 重要なリース取引の処理方法 リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p>	<p>ハ．その他 同 左</p> <p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法 有形固定資産 同 左</p> <p>少額減価償却資産 同 左 無形固定資産 同 左</p> <p>長期前払費用 イ．量産準備のために特別に支出した開発費用 同 左</p> <p>ロ．その他 同 左 繰延資産の処理方法</p> <p>ロ．新株発行費 支出時に全額費用処理しております。</p> <p>(3) 重要な引当金の計上基準 貸倒引当金 同 左</p> <p>賞与引当金 従業員の賞与の支給に備えるため、当連結会計年度に負担すべき支給見込額を計上しております。</p> <p>(4) 重要なリース取引の処理方法 同 左</p>

期 別 項 目	当第3四半期 (自 平成16年4月1日 至 平成16年12月31日)	前連結会計年度 (自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日)
	(5) その他連結財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理 税抜方式によっております。 税金費用の計上基準 法定実効税率をベースとした年間 予測税率により計算しております。	(5) その他連結財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理 同 左
5. 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (連結キャッシュ・フロー計算書)における 資金の範囲	手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3カ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。	同 左

注記事項

(四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期末 (平成16年12月31日現在)	前連結会計年度 (平成16年3月31日現在)
1. 有形固定資産の減価償却累計額 158,274千円	1. 有形固定資産の減価償却累計額 285,871千円
2. 債務保証 次の会社について、任天堂㈱とのリース契約に対し債務保証を行っております。	2. 債務保証 次の会社について、任天堂㈱とのリース契約に対し債務保証を行っております。
保 証 先 金 額 内 容	保 証 先 金 額 内 容
Macronix International Co.,Ltd. 千円 521,050 リース債務 (5,000千US\$)	Macronix International Co.,Ltd. 千円 528,450 リース債務 (5,000千US\$)
計 521,050 -	計 528,450 -
3. 投資その他の資産の貸倒引当金 2,846千円	3. 投資その他の資産の貸倒引当金 18,691千円

(四半期連結損益計算書関係)

当第3四半期 (自 平成16年4月1日 至 平成16年12月31日)	前連結会計年度 (自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日)
1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。	1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。
給 料 343,398千円	給 料 568,649千円
賞与引当金繰入額 35,395	賞与引当金繰入額 68,614
研究開発費 1,157,971	研究開発費 1,628,703
退職給付費用 4,647	退職給付費用 7,865

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期 (自 平成16年4月1日 至 平成16年12月31日)	前連結会計年度 (自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日)
1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 現金及び預金勘定 3,772,050千円 預入期間が3カ月を超える定期預金 - 現金及び現金同等物 3,772,050	1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 現金及び預金勘定 11,734,446千円 預入期間が3カ月を超える定期預金 - 現金及び現金同等物 11,734,446
2. 重要な非資金取引の内容 該当事項はありません。	2. 重要な非資金取引の内容 該当事項はありません。

セグメント情報

当第3四半期は、「セグメント情報」を四半期連結ベースで作成する初年度であるため、前年同期の記載は行っておりません。

1. 事業の種類別セグメント情報

当第3四半期（自平成16年4月1日 至平成16年12月31日）

（単位：千円）

	L S I 事業	システム事業	オーディオ・オーサリング事業	計	消去又は全社	連 結
売 上 高						
(1) 外部顧客に対する売上高	22,325,786	1,728,668	517,676	24,572,131	-	24,572,131
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	13,133	1,000	1,085	15,218	15,218	-
計	22,338,919	1,729,668	518,761	24,587,349	15,218	24,572,131
営 業 費 用	19,602,507	2,156,397	603,799	22,362,704	22,902	22,339,801
営業利益又は損失（ ）	2,736,412	426,729	85,037	2,224,645	7,684	2,232,330

（注）1. 事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2. 営業費用の各セグメントへの配分方法の変更

従来、管理部門に係る営業費用については、配賦不能営業費用として消去又は全社の項目に含めて表示していましたが、当第3四半期より当社グループ内の管理部門を持株会社として再編したことに伴い、各セグメントへの合理的な配賦が可能になったことから、セグメント別の営業損益をより適正に表示するため、当該費用を各セグメントへ配賦する方法に変更しております。

3. 事業区分の方法の変更

従来、「L S I 事業」「システム事業」の区分によっておりましたが、平成16年4月、株式会社メガチップスシステムソリューションズのオーディオ・オーサリング事業を株式会社カメオインタラクティブに承継したことに伴い、事業の種類別セグメントの変更を行うこととし、当該事業を従来からの「システム事業」セグメントから切り離し、「オーディオ・オーサリング事業」セグメントを新設することにいたしました。

2. 所在地別セグメント情報

当第3四半期（自平成16年4月1日 至平成16年12月31日）

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合がいずれも90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

3. 海外売上高

当第3四半期（自平成16年4月1日 至平成16年12月31日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

生産、受注及び販売の状況

当第3四半期は、「生産、受注及び販売の状況」を四半期連結ベースで作成する初年度であるため、前年同期との比較は行っておりません。

(1) 生産実績

当第3四半期における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

（単位：千円）

事業の種類別セグメントの名称	金 額
L S I 事業	22,266,074 (22,003,772)
シ ス テ ム 事 業	1,728,668 (-)
合 計	23,994,743 (22,003,772)

（注）1. 金額は販売価格によっております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3. () 内は、外注による製品仕入相当額であり内数表示しております。

(2) 商品仕入実績

当第3四半期における商品仕入実績は、次のとおりであります。

(単位：千円)

事業の種類別セグメントの名称	金額
L S I 事業	1,628
オーディオ・オーサリング事業	376,038
合計	377,666

(注) 1. 金額は仕入価格によっております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 受注状況

当第3四半期における受注状況を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

(単位：千円)

事業の種類別セグメントの名称	受注高	受注残高
L S I 事業	22,061,190	687,666
システム事業	1,684,341	165,859
合計	23,745,532	853,525

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(4) 販売実績

当第3四半期における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

(単位：千円)

事業の種類別セグメントの名称	金額
L S I 事業	22,325,786
システム事業	1,728,668
オーディオ・オーサリング事業	517,676
合計	24,572,131

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. セグメント間の取引については相殺消去しております。

3. 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

(単位：千円)

相手先	金額	割合(%)
任天堂(株)	18,055,441	73.5